①経営力（ア）長期成長ビジョン

日本の製造業を支える環境装置メーカーとして成長し、売上高100億円企業を目指す

主な動機

外発的動機

■先端産業の拡大

半導体、次世代電池、リサイクル等の成長により粉体処理需要が増大、微細粉体の品質管理・安全対策の重要性が急速に高まっている。

■安全・環境規制の強化

粉じん爆発防止や作業環境改善など安全対策需要の拡大、工場環境の高度化が企業の競争力を左右している。

■製造工程の高度化

製品品質・歩留まり向上のため工程最適化ニーズが増加、粉体特性に応じたオーダーメイド装置の需要が拡大している。

➡ 製造工程に最適化した高性能集塵・粉体処理装置の需要が拡大している。

内発的動機

■創業以来の強み

粉体処理・集塵装置のオーダーメイド開発に強みを有し、顧客製造工程への深い理解と課題解決ができる。

■現場密着の開発姿勢

粉体特性や工程条件は顧客ごとに異なるが、当社なら研究開発段階から顧客と伴走する装置開発ができる。

■技術力と経験の蓄積

食品、化学、鉄鋼、ガラスなど幅広い業界で実績を有し、粉体処理の高度化に対応する独自技術を蓄積している

➡ 技術力と経験を活かし製造現場の課題解決に貢献できる。

長期ビジョン

長期ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

■目指す企業像

当社は粉体処理・集塵技術を核とした環境装置メーカーとして、製造現場の品質向上、安全確保、環境負荷低減を同時に実現する「製造プロセス環境技術パートナー」を目指す。

■社会課題への対応

粉体は食品、化学、鉄鋼、ガラス、セラミックスなど多くの素材産業の工程で扱われ、製品品質や歩留まり、安全対策に直結する重要な要素である。当社は粉体特性や工程条件に応じたオーダーメイド設計により、顧客製造プロセス全体の最適化に貢献する。

■成長分野への展開

既存分野に加え、半導体、次世代電池（全固体電池）、リサイクルなどの成長産業に展開し、研究開発段階から顧客と伴走することで日本の先端製造を支える技術基盤を強化する。

■持続的成長の実現

生産キャパシティ拡張、技術開発、人材育成を一体的に進め、持続的な賃上げと企業成長を両立する。

➡ 日本の製造業を支える環境装置メーカーとして中小企業から中堅企業へと成長し、売上高100億円企業を目指す。

会社全体の成長目標（基準年～2032年）

- 売上高増加額　5,160百万円
- 売上高成長率（CAGR）　31.3％
- 全社賃上げ予定率　6.1％

①経営力（イ）事業戦略

五十子第二工場新設による生産キャパシティ拡張と高付加価値装置供給体制の強化

補助事業の概要

補助事業の課題	半導体、電池、先端材料などの成長分野では、製造工程で発生する粉体や排気ガスへの高度な環境・安全対策が求められており、**粉体処理・集塵装置の需要が急速に拡大**している。当社にも高難度案件の引き合いが増加しているが、**生産キャパシティが不足**しており、受注拡大の制約となっている。	**事業費（補助額）**	2,001百万円 585百万円

補助事業の内容

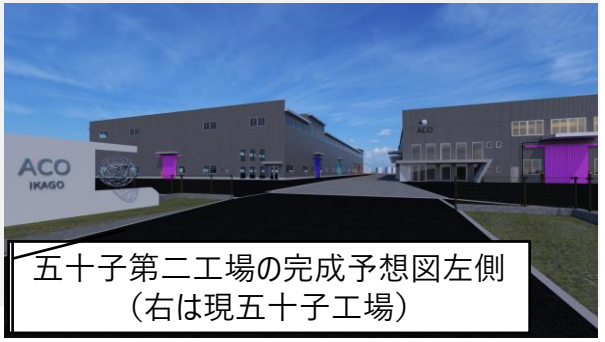
① 五十子第二工場
- 五十子第一工場隣接地に新設し、両工場一体での生産体制を構築
- 第一工場の製缶・溶接機能と、第二工場の中大型装置組立・検査機能を連携
- 搬送ロスを削減し、大型案件の同時並行生産を可能化
- 工場間にトロッコを通し、仕掛かり製品をスムーズに移送
- 建屋・付帯設備に約17億円を投資

② 加工設備
- 三菱電機製ファイバーレーザー加工機 、アマダ製アイアンワーカー IW-453等、最新設備を導入
- 加工工程の内製化を進め、生産体制を強化、高精度部材の加工対応力を向上すると同時に納期短縮、品質安定、外注依存低減を図る
- 総額で約3億円の投資を見込む

③ AI活用クラウド受発注・生産管理システム
- 自社開発のクラウド型受発注・生産管理システムを構築し、受発注情報、仕様、工程進捗の一元管理を実現
- 約1,000万円（補助事業外）の投資を見込む

設備投資の内容

① 五十子第二工場（約17億円）
② 最新加工設備（約3億円）
③ AI活用クラウド受発注・生産管理システム（1,000万円：ただし補助対象外経費）
当社は半導体・電池材料、食品、化学等の製造業向けにオーダーメイド集塵機・粉体処理装置を提供しているが、ここ2年で売上が1.5倍になり、かつ足元でも従来の取引先からの需要が高水準で推移し、新規産業・新規顧客から引き合いも増ている。このまま推移すれば、後２～３年で当社の生産キャパシティがひっ迫することは確実であり、生産基盤の抜本的強化が急務である。本事業では**五十子第二工場の建設と加工設備の導入により生産キャパシティを拡張し、工程の一貫化と内製化を推進**する。これにより作業効率と納期対応力を高め、付加価値額の増加と労働生産性の向上を実現する。



五十子第二工場の完成予想図左側
（右は現五十子工場）

補助事業における目標値

項目	基準年度 2029年度３月期	事業化報告３年目 2032年度３月期	年平均上昇率(%)
労働生産性 （千円/人）	9,546	13,592	12.5%
従業員1人当たり 給与支給総額 （千円/人）	6,260	7,487	6.1%
補助事業に係る 従業員数 （人）	155	245	